

平成 24 年 12 月 5 日

報道関係各位

独立行政法人 国立科学博物館
公益財団法人高知県牧野記念財団

日本の科学者技術者展シリーズ 第 10 回
企画展「植物学者・牧野富太郎の足跡と今」
開催およびプレス内覧会実施のお知らせ

国立科学博物館（台東区上野公園、館長：近藤 信司）におきましては、このたび下記のとおり 12 月 22 日（土）から、日本の科学者技術者展シリーズ第 10 回 企画展「植物学者・牧野富太郎の足跡と今」を開催いたしますので、お知らせいたします。

また、本企画展のオープンに先立ち 12 月 21 日（金）に、別添のとおりプレス内覧会を実施いたしますので、併せてご案内申し上げます。

国立科学博物館は、公益財団法人高知県牧野記念財団とともに 12 月 22 日から 3 月 17 日の期間で 日本の科学者技術者展シリーズ 第 10 回 企画展「植物学者・牧野富太郎の足跡と今」を開催いたします。

2012 年は牧野富太郎博士が高知県佐川町に生まれてから 150 年目にあたります。本企画展では、近・現代の科学・技術の発展に寄与した日本の科学者・技術者の一人として、牧野博士の功績を紹介するとともに、牧野博士が生涯をかけて収集した莫大な標本資料や、全国のさまざまな地域で精力的に展開した教育普及活動などが、その後多くの分野で研究者や植物愛好家などにどのような影響を及ぼしたか紹介いたします。本企画展は、6 月 16 日から 9 月 23 日の期間で高知県立牧野植物園にて開催し、多くの来園者に展示をご覧頂きました。

つきましては、展示のオープンに先立ち、12 月 21 日（金）午後 3 時 00 分～5 時 00 分の間、プレス内覧会を実施いたしますので、取材・記事の掲載など本企画展の広報に関して特段のご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

記

【会 場】国立科学博物館（台東区上野公園 7-20）日本館 1 階 企画展示室

【開催期間】平成 24 年 12 月 22 日（土）～平成 25 年 3 月 17 日（日）

【入 館 料】常設展示入館料のみでご覧いただけます。

（一般・大学生：600 円（団体 300 円）高校生以下および 65 歳以上無料※団体は 20 名以上）

【休 館 日】毎週月曜日（月曜日が祝休日の場合は火曜日）、12 月 28 日（金）～1 月 1 日（火・祝）
ただし 12 月 25 日（火）は開館

【主 催】独立行政法人国立科学博物館、公益財団法人高知県牧野記念財団

【後 援】社団法人日本植物学会、社団法人日本植物分類学会

【主な展示資料】別添の「展示のポイントと資料紹介」にて写真入りでご紹介します。

日本の科学者技術者展シリーズ 第 10 回
企画展「植物学者・牧野富太郎の足跡と今」
プレス内覧会のお知らせ
平成 24 年 12 月 21 日（金）午後 3 時 00 分～／上野・国立科学博物館

国立科学博物館では、日本の科学者技術者展シリーズ 第 10 回 企画展「植物学者・牧野富太郎の足跡と今」の開催に先立ち、下記のとおりプレス内覧会を実施いたします。

当日は、担当研究者による展示解説も行いますので、ぜひご参加いただき、記事として取り上げていただければ幸いです。

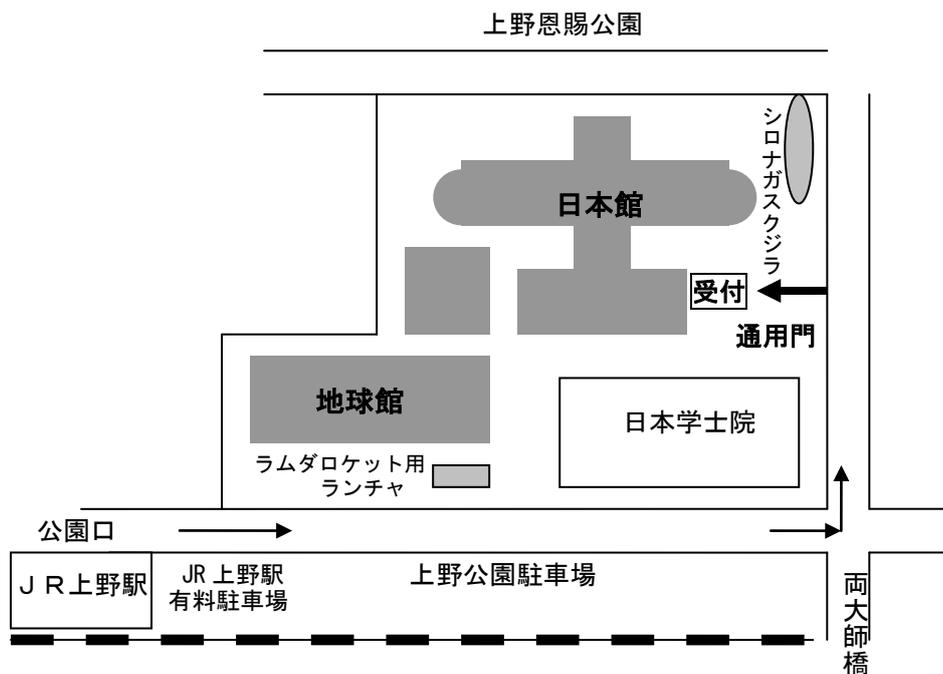
記

【日 時】 平成 24 年 12 月 21 日（金）午後 3：00～午後 5：00（受付開始午後 2：30～）

【会 場】 国立科学博物館 （東京都台東区上野公園 7-20）

【受付場所】 国立科学博物館 事務棟入口 ※通用門からお入りください。

〈交通のご案内〉 JR上野駅公園口から徒歩 5 分、東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅から徒歩 10 分、京成電鉄上野駅から徒歩 10 分 ※駐車場の用意はございません。



当日のスケジュール

午後2:30～ 受付開始（受付場所：事務棟入口 ※通用門からお入りください）

午後3:00～5:00 展覧会内覧（会場：日本館1階企画展示室）

- ・担当研究者が展示解説を行い、皆様からのご質問にお答えします。
- ・展示室内の撮影が可能です。

担当研究者のプロフィール



国立科学博物館 植物研究部 陸上植物研究グループ 研究主幹
門田 裕一（かどた ゆういち）

専門分野は顕花植物（花を咲かせる植物）の分類・地理学的研究。特に、ユーラシア大陸産トリカブト属と日本産アザミ属の種族誌的研究、これと並行して日本産高山植物の地理学的研究を行っています。京都大学大学院理学研究科併任教授（2002～2004）。松下幸之助花の万博記念奨励賞受賞（2009）。「植物研究雑誌」編集幹事（1991～）。

1949年大阪府生まれ。静岡大学理学部卒業。東京大学大学院理学系研究科植物学専攻修士課程修了。1978年より国立科学博物館植物研究部の研究官、主任研究官、室長を経て2006年より現職。理学博士。



高知県立牧野植物園 研究・教育普及部 研究員

田中 伸幸（たなか のぶゆき）

専門分野は種子植物の系統分類・地理学的研究。特に、東南アジア大陸部におけるフロラ（植物誌）研究およびカンナ科やショウガ科など大型の単子葉類の種族誌的研究をおこなっています。カンナ科については、資源植物の観点から有用植物学的な研究も行っています。日本大学生物資源科学部非常勤講師、高知大学理学部客員准教授。

1971年東京都生まれ。日本大学農獣医学部応用生物科学科卒業。東京都立大学大学院理学系研究科（植物系統分類学専攻）博士課程修了。2001年より現職。理学博士。

参加をご希望の方は、別紙「返信用紙」にて12月19日(水)までにお知らせください。

※事前にお申し込みいただかなくても、当日ご参加できますが、大まかな人数把握をさせていただきますたく存じますので、下記担当までご返信いただければ幸いです。

本件に関するお問い合わせ先

国立科学博物館 事業推進部 企画展示課 担当：吉野、関根

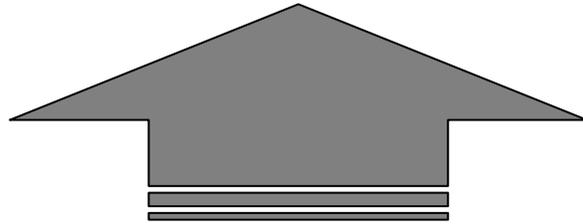
TEL 03-5814-9175、9883 FAX 03-5814-9899

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

E-mail:kikakuten@kahaku.go.jp

詳細は下記をご覧ください。

<http://www.kahaku.go.jp/event/2012/12makino/>



【 返 信 用 紙 】

F A X 番 号

< 0 3 - 5 8 1 4 - 9 8 9 9 >

日本の科学者技術者展シリーズ 第10回

企画展「植物学者・牧野富太郎の足跡と今」

プレス内覧会 参加票

(平成24年12月21日(金) 午後3時00分～午後5時00分)

(受付:午後2時30分～)

参加をご希望される方は、下記項目にご記入の上、事前にFAXにてご返信
いただければ幸いです。

解説小冊子のみの請求も受け付けています。

お手数をおかけいたしますがよろしくお願い申し上げます。

ご出席 解説小冊子のみの請求

貴社名 _____

貴メディア・所属部署名 _____

ご芳名 _____

連絡先

住所：〒 _____

TEL： _____ FAX： _____

メールアドレス： _____

備考 _____

企画展「植物学者・牧野富太郎の足跡と今」 展示のポイントと資料紹介

植物学者・牧野富太郎

1862（文久2）年に現在の高知県高岡郡佐川町に生まれました。幼い頃から植物に興味を持ち独学で植物を勉強していた牧野博士は、本格的に植物学を志し1884（明治17）年22歳で上京します。1887（明治20）年には『植物学雑誌』を創刊し、1889（明治22）年にはヤマトグサを日本国内で最初に新種として発表しています。94年の生涯において約1500種類以上の植物を新種などとして発表し、収集した植物標本は約40万枚を数えます。全国の植物同好会などで植物観察指導を行ったほか、多くの植物啓蒙書を残しています。



1. 牧野富太郎とその学術的業績

牧野博士は研究対象とする植物を詳しく図示しました。それは後に牧野式植物図と呼ばれるもので、このような植物図を描くためには注意深い観察力が必要となり、それが博士の研究スタイルの礎となりました。このスタイルが植物の詳細な特徴記述を生み出し、多くの実績を積み上げることとなります。

①牧野式植物図とは

牧野博士は1つの個体を中央に描くのではなく、複数個体、しかも芽生えから開花、果実までいくつもの成長段階を描き、周囲には部分図を余すところ無く配置し、その種の全体像を描き切ろうとしました。ここではホテイランを描いた植物画を使用し、その特徴を解説し生体写真との比較も行なっております。



牧野式植物図（ホテイラン）



ホテイランの生態写真

②牧野式植物図の変遷

初期の牧野博士の図には、本草書の影響を色濃く見ることが出来ます。上京後、西洋植物学の文献に触れる機会が増え、陰影や遠近法などの技法が用いられるようになり、作図の技量が飛躍的に向上しました。



19歳の時に描いた図（コシアブラ（ウコギ科））



牧野博士が描いた植物図
（サルメンエビネ（ラン科））



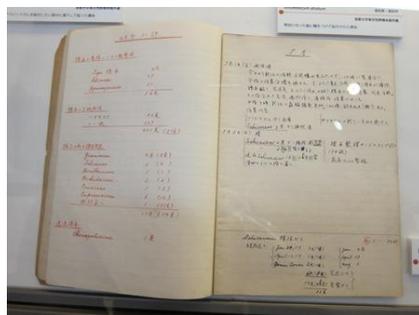
牧野博士が描いた植物図
（ヒガンバナ（ヒガンバナ科））

③牧野が採集した標本

牧野博士は94年の生涯において約1500種類以上の植物に学名を与え、収集した標本は約40万枚を数えました。博士がこの世を去ってから55年がたった現在、これら標本を研究遺産として活用するため、標本の整理作業が続けられています。



博士が使用した野冊
（標本採集に使用する道具）



牧野標本の整理記録簿
所蔵：首都大学東京牧野標本館



標本整理に使用する道具
所蔵：首都大学東京牧野標本館

④牧野の植物図の影響

牧野博士は学者でありながらも自らが図を描くことの出来る数少ない学者でしたが、多忙のあまり次第に植物画家に図を託すようになります。ここでは博士の指導や影響を受けた植物画家の作品を紹介します。



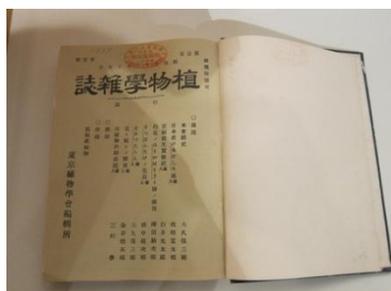
水島南平画伯の作品



山田壽雄画伯の作品

⑤植物学雑誌と植物研究雑誌

植物学の研究が進むにつれ、その成果を発表する場が必要とされました。牧野博士が創刊に関わった『植物学雑誌』（1887年～）や『植物研究雑誌』（1916年～）は現在まで発刊が続けられており、日本の学術雑誌の中で大きな位置を占めています。



『植物学雑誌』第1巻1号



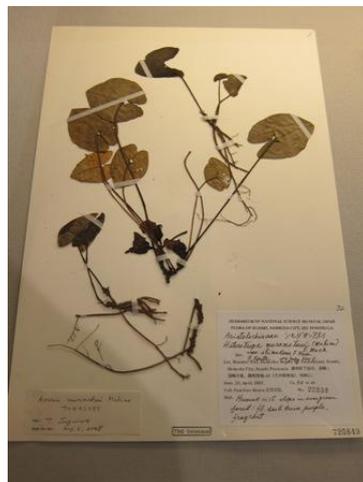
『植物研究雑誌』第1巻1号

⑥記載種とその後

牧野博士が記載した植物のうちツチトリモチ、カンアオイ、タムムラサキ、オウレンおよびナベワリの5種類をピックアップし、その後の研究がどのように進んでいるのかを紹介します。



シコクバイカオウレンの標本



アマギカンアオイの標本



シコクナベワリの標本

2. 牧野富太郎の教育普及とその功績

牧野博士が成し遂げたもう1つの大きな仕事は、植物知識の一般への普及活動です。各地の同好会での指導、数多くの植物に関する啓蒙書の刊行、図鑑の制作などに見られる博士の教育普及活動は、地域の植物研究や植物誌の刊行などに多大な影響を及ぼし、各地で今でもその精神が引き継がれています。

①在野の研究者との交流

1905年頃から、牧野博士は全国各地の植物同好会や師範学校などに招かれ、観察会や講演を行いました。博士の教示を受けた数多くの在野の研究者らは、その教えや姿勢を次世代に受け継いでいます。

牧野博士と交流のあった人物の名刺



②標本同定と依頼書簡について

牧野博士のもとには全国から標本の同定依頼や植物に関する問い合わせの手紙が寄せられました。博士はこれらの問い合わせに対して、懇切丁寧な回答をしています。



牧野博士に届いた植物の同定依頼などの書簡の一部

③各地での牧野の活動とその後

全国の植物同好会と関わりをもった牧野博士ですが、ここでは特に兵庫、宮城、東京、神奈川における博士の活動と、その後、博士の精神がいかに関わっているか現在の活動なども合わせて紹介します。



スエコザサの標本



ヒメオドリコソウの標本

所蔵：東北大学植物園記念館

④啓蒙書、図鑑類の刊行

牧野博士は日本各地の植物同好会を指導する一方で、植物を広く一般に普及させるため数多くの啓蒙書を残しています。

本棚風の展示ケースに牧野博士が刊行に携わった書籍の一部を展示



⑤昭和天皇と牧野富太郎

昭和天皇は植物にも深い関心をお持ちになり、ご研究の成果をいくつかの植物誌にまとめ発表されています。これら植物誌に引用された標本を調べると No.1 から No.900 までは牧野博士が同定していることがわかります。



ハマエンドウの標本



タマムラサキの標本

⑥牧野が故郷に残したもの

牧野博士の郷里である高知県高岡郡佐川町は「佐川山分学者あり」とうたわれるほど文士学者を多く輩出した地でもあります。博士は東京に住居を構えたあとも郷里土佐を気にかけており、高知県の学者、愛好者と頻繁に交流を重ねました。現在でも博士の郷里にはさまざまな足跡が残っています。



佐川町が主催する牧野科学賞の賞状と盾

所蔵：佐川町立佐川小学校



平成 23 年「牧野賞科学展」(中学校の部)

優秀賞を受賞した作品

所蔵：佐川町立佐川中学校

エピローグ

牧野博士の成し遂げた業績、そして現代にどのように受け継がれてきたかを紹介することで植物分類学が歩んできた道をご理解頂けるかと思えます。

現代では分子（DNA やタンパク質）情報にもとづいた系統分類が盛んに行われています。分子系統学と呼ばれている手法です。これからもいろいろな植物を対象として、分子系統学的な解析が進められていくでしょう。

しかしながら、植物の進化は分子情報が分かればそれで終了、といったものではありません。例えば、地球上にどのような植物が存在するのか、それがこれからどのような道筋をたどって進化していくのか、という問題を解明することは分類学の使命です。博物館と植物園はこれからも植物分類学の進歩に貢献していきます。



牧野博士の 71 歳佐渡海府石花川上流にて植物採集

広報用写真提供

広報用として写真をご用意しております。

国立科学博物館ホームページの「企画展」写真貸出からお申し込みできます。

(http://www.kahaku.go.jp/procedure/rent/sample_photo.php?group=0001352785728623)



ポスター

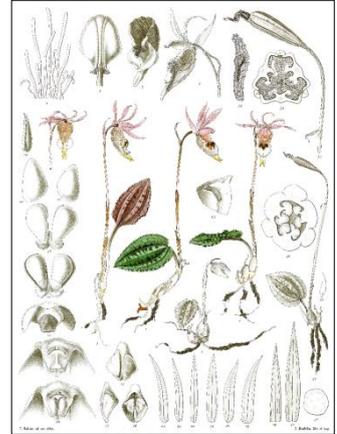
(植物学者・牧野富太郎の足跡と今)

画像提供: 国立科学博物館



ホテイラン

画像提供: 高知県立牧野植物園



牧野式植物図(ホテイラン)

所蔵および画像提供: 高知県立牧野植物園



牧野博士

所蔵および画像提供: 高知県立牧野植物園



牧野博士71歳佐渡海府石花川上流にて植物採集

所蔵および画像提供: 高知県立牧野植物園



採取した標本とともにたたく牧野博士(池長植物研究所内)

所蔵および画像提供: 高知県立牧野植物園



牧野博士に届いた植物同定依頼などの書簡の一部

所蔵および画像提供: 高知県立牧野植物園

【記事利用の際のお願い】

- * 写真使用は本展の紹介のみとさせていただきます。本展終了後の使用はできません。
- * 写真掲載時には、資料のクレジットを必ずご記載ください。
- * 展覧会の開催情報紹介欄に、会期、入館料、開館時間などの基本情報をご掲載いただく場合は確認のため、校正の段階でお送りください。(記事内容をチェックするものではありません。)
- * ご掲載いただいた場合は、掲載誌等をお送りいたしますようお願い申し上げます。

〈広報に関するお問い合わせ先〉 国立科学博物館 事業推進部 広報・常設展示課 福井、佐々木
電話 03-5814-9855、9858 FAX 03-5814-9898
E-mail: shuzai@kahaku.go.jp
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20

企画展

日本の科学者技術者展シリーズ 第10回

植物学者 牧野富太郎の 足跡と今

2012年 2013年
12月22日(土)~3月17日(日)

国立科学博物館 日本館1階 企画展示室

- 開館時間：午前9時~午後5時(金曜日は午後8時まで)
※入館は各閉館時刻の30分前まで
※今後の諸情勢により、上記の開館日・開館時間等については変更する場合がありますので、ホームページ等でご確認ください。
- 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は火曜日)、12月28日(金)~1月1日(火・祝)
※ただし、12月25日(火)は開館
- 入館料：一般・大学生600円(団体300円)
高校生以下および65歳以上無料
※団体は20名以上

主催：独立行政法人国立科学博物館／公益財団法人高知県牧野記念財団
後援：社団法人日本植物学会／社団法人日本植物分類学会

足跡 現代に遺した 牧野富太郎が

植物学者、牧野富太郎が高知県佐川町に生まれ、今年で150年を迎えます。生涯愛した植物の研究に没頭し、遺した業績は大きく2つに分けることができます。本展では、これまでの展示と異なる視点—現在という時間軸を加え、牧野富太郎の仕事が後の研究者や植物愛好家にどのような影響を与えたかを考えます。

■ 牧野富太郎と記載学

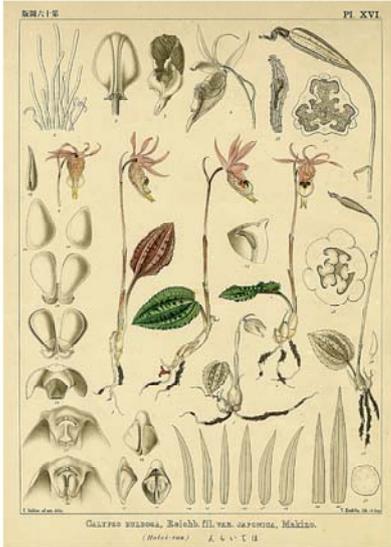
生物の種類ごとに、その特徴を学術的に記述し、記録することを「記載」といいます。まだ日本の植物があまり解明されていなかった時代、牧野は全国に赴き、未知の植物に学名をつけ、記載しました。本展では記載の資料となるおびただしい数の標本や文献、また精緻な植物図をもとに牧野の業績を紐解きます。また牧野が創刊し、現在も刊行されている学術雑誌や、牧野が発表した植物についてその後行われた最新の研究結果を紹介します。

■ 牧野富太郎と教育普及活動

牧野のもう一つの業績は全国各地で行った植物に関する教育普及活動です。各地で興った植物同好会などの講演会や観察会に足を運び、地方の研究者や趣味家に直接、または手紙などで指導を行いました。これらの交流による植物の情報は、後の研究や著作に大きな影響を及ぼし、集大成となる牧野日本植物図鑑へとつながります。植物同好会の記録や貴重な映像資料でその足跡をたどり、現代全国に生きる牧野の影響について紹介します。



東京植物同好会の例会の様子(昭和12年 平塚海岸)



『大日本植物志』第1巻第4集第16図版「ホテイラン」

■ 昭和天皇との交流

牧野の植物の普及活動は皇室にも及びました。昭和天皇の標本を最初に鑑定したのは牧野で、昭和記念筑波研究資料館(茨城県つくば市)には、大正～昭和初期に牧野が鑑定した標本が現在も収められています(右写真)。1948(昭和23)年、牧野は昭和天皇に植物学のご進講を行いました。牧野が鑑定した昭和天皇の標本は、初公開です。昭和天皇との交流を貴重な資料で紹介します。



ハマエンドウ(マメ科)

● 牧野富太郎ゆかりの地ツアー

高知発東京行きのルートで牧野のゆかりの地を巡ります。講師が同行し、見学地では各施設の専門家による解説もあります。

■日にち 平成25年3月6日(水)、7日(木)

■主な見学地

国立科学博物館(上野本館および附属自然教育園)、練馬区立牧野記念庭園、牧野博士の墓碑、小石川植物園、首都大学東京牧野標本館

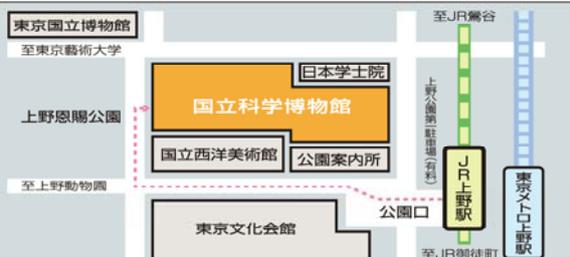
※申し込み方法など詳細はホームページ等でお知らせします。



牧野 富太郎 1862(文久2)年—1957(昭和32)年 現在の高知県高岡郡佐川町に生まれました。幼い時から植物に興味を持ち独学で植物を勉強していた牧野は、本格的に植物学を志し1884(明治17)年22歳で上京します。1887(明治20)年には『植物学雑誌』を創刊し、1889(明治22)年にはヤマトグサを日本国内で最初に新種として発表しています。94年の生涯において約1500種類以上の植物を新種などとして発表し、収集した植物標本は約40万枚を数えます。全国の植物同好会などで植物観察指導を行ったほか、多くの植物啓蒙書を残しています。

〈交通ガイド〉

JR「上野駅」公園口から徒歩5分
東京メトロ銀座線・日比谷線「上野駅」から徒歩10分
京成電鉄「京成上野駅」から徒歩10分
※駐車場はありませんので、お車での来館はご遠慮ください。



国立科学博物館モバイルサイト

